

広域環境保全の推進について (令和元年度 実績)

関西広域連合 広域環境保全局

【内容】

- (1) 関西広域環境保全計画の概要について
- (2) 低炭素社会づくりの推進について
- (3) 自然共生型社会づくりの推進について
- (4) 循環型社会づくりの推進について
- (5) 環境人材育成の推進について

(1) 関西広域環境保全計画の概要について

関西広域連合 広域環境保全局

広域環境保全計画(第2期)の概要について

関西の現状

● 関西の特性

都市と農山漁村、自然が適度に分散し、
それぞれが比較的近接している

**都市と自然の
魅力を同時に享受できる地域**です。

人口は2,029万人(H22国勢調査)で
日本全体の15.8%を占め、

**琵琶湖・淀川流域圏に
約8割が生活**しています。

多様性と厚みを兼ね備えた**歴史・文化が
生物多様性とも深く関連**しています。

太陽電池工場や水処理プラントなどの
環境関連産業が集積しています。

大学・研究機関が集積し、NPOや
**市民団体等による環境保全活動の
先進地**です。



メガソーラー (堺市)



広域環境保全計画(第2期)の概要について

■「関西広域環境保全計画（H29.3月策定）」の概要

1 計画の趣旨

関西における環境分野の広域的課題に対処していくため、目指すべき姿、施策の方向性、取り組むべき施策等を定めた計画であり、この計画を指針として、様々な主体とともに、環境先進地域「関西」を目指す。

2 計画期間

平成29年度から平成31年度（3年間）

3 目指すべき姿

- | | |
|-------|------------------------|
| ◆将来像1 | 暮らしも産業も元気な低炭素社会 |
| ◆将来像2 | 生物多様性の恵みを身近に感じる自然共生型社会 |
| ◆将来像3 | すべてのものを資源と考える循環型社会 |
| ◆将来像4 | 安全・安心で歴史と文化の魅力あるまち |
| ◆将来像5 | 持続可能な社会を担う人材の宝庫 |

地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西

広域環境保全計画の施策に関する3つの視点

視点1 スケールメリットを活かす

関西広域連合が実施することで、府県市による個別実施よりも効果的、効率的に実施することができる。

（例）府県域を越えて移動するカワウの生息動向・被害状況調査については、各府県市よりも関西広域連合で実施する方が、効率的に行うことができる。

視点2 方向性の提示

府県市が各々の実情を踏まえて行う取組に対し、関西広域連合が方向性を提示することで、それらの取組に統一感が生まれ、効果をより高めることができる。

（例）「関西エコスタイル」の啓発活動に用いるポスターを全構成府県市統一のデザインにすれば、人々が目にする機会をより多くすることができる。

視点3 優良事例の波及

構成府県市の優良事例を、関西広域連合が各構成府県市に波及させることで、関西全体の底上げを図ることができる。

（例）幼児への環境学習の推進については、そのノウハウの蓄積が充分でない地域もあるが、関西広域連合と構成府県市が協力して優良事例のモデル実施を行うことにより、ノウハウを共有することができる。

広域環境保全計画(第3期)の概要について

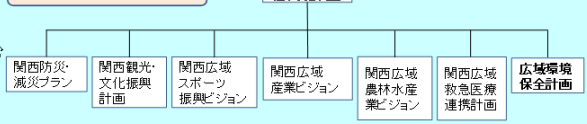
第1章 計画の概要

＜目的・位置付け＞

- ・世界や我が国の動きに適切に対応し、効果的に施策を実施するため
- ・地方自治法に基づく計画である広域計画の下位計画に相当する分野別計画
- ・構成府県市が実施する施策と役割分担しつつ、関西広域連合として広域的に取り組むことが住民生活の向上や効率的な事務の執行につながる施策について定めるもの

＜計画期間＞ 令和2年度～令和4年度(2020年度～2022年度) (3年間)

広域計画の位置付け



第2章 関西地域の概況

1 社会

- (1) 地理的特性 森・里・川・海の繋がる自然を保有
- (2) 人口 約2,058万人(2018年度)
- (3) 歴史・文化 多様な文化の創造・蓄積・継承地域

2 経済

- (1) 産業
 - ・構成府県市の総生産は全国の15%(約80兆2,720億円)
 - ・地域の自然特性を活かした産業があり、太陽電池等の環境関連企業が集積
- (2) 知の集積
 - ・特色ある研究開発拠点が各地に立地
 - ・文化庁(京都府)等の国機関の移転が徐々に進行
- (3) 国際イベントの開催による魅力発信・活性化
 - ・ワールドマスタースゲームズ2021関西(2021年)
 - ・[大阪・関西万博](2025年)

3 環境

- (1) 世界・国内の動き
 - ・「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標年(2030年)に向け、世界中での様々な取組が進行
 - ・COP24(2018年)で「パリ協定」の運用ルールが採択
 - ・G20大阪サミット(2019年)で「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有
 - ・地域循環共生圏の創造を目指す「第五次環境基本計画」が策定
 - ・気候変動適応法が公布・施行(2018年)
 - ・「食品ロスの削減の推進に関する法律」が公布(2019年)
- (2) 地球温暖化
 - ・構成府県市の温室効果ガスの排出量:3.0%減少(2018年度、1990年度比)(全国平均との温室効果ガス排出量の比較)
 - 産業部門:削減率小、運輸部門:削減率大、家庭部門:増加率小、業務部門:増加率小
- (3) 生物多様性
 - ・森・里・川・海の豊かで多様な自然を有し、様々な生態系サービスを提供
 - ・コシガ、カワ、外来生物等による農林水産被害、生態系への影響が継続
- (4) 資源循環
 - ・構成府県市の住民一人当たりのごみ排出量:921g/日(全国水準レベル)
 - リサイクル率は:15.1%(全国平均20.2%)
- (5) 環境学習
 - ・住民、企業、NPO等多様な主体により、地域の豊かな自然、文化を守り、活かすための取組を実施

4 分野横断的な取組

プラスチック対策・災害廃棄物対策
国等の動きを注視するとともに、関西広域連合の本部事務局および関係分野事務局と必要な連携を図る。

第3章 関西が目指すべき姿

SDGsの目標年度である2030年度を見据え、目標を設定

目標:地域環境・地球環境問題に対応し、環境・経済・社会の統合的向上による持続可能な関西の実現

＜将来像＞

- 豊かな暮らしと元氣な産業が実現された低炭素社会
- 生物多様性が保全され、その恵みを身近に感じる自然共生型社会
- すべてのものを資源と考える循環型社会
- 持続可能な社会を担う人材の充実
- 安心・安全な環境に支えられた歴史と文化の魅力あるまち

第4章 施策の展開

3つの視点に着目し、4つの分野において施策を展開

【施策展開の3つの視点】

視点1:スケールメリットの活用

構成府県市が個別・単独で実施するより、関西広域連合での実施がより効果的・効率的である施策

視点2:方向性の提示

関西広域連合全体で統一感を持って取組を実施することで、より効果を高めることができる施策

視点3:優良事例の波及

構成府県市の優良事例を波及させることで関西全体の底上げを図ることができる施策

【取組の方向性】

- (1) 低炭素社会づくり(地球温暖化対策)
 - 住民・事業者への啓発推進
 - ・エコスタイル等による省エネ・節電の普及啓発
 - ・地球温暖化防止活動推進員等の合同研修会
 - 次世代自動車普及に向けた普及啓発
 - ・電気自動車等の普及拡大に向けた情報発信
 - 再生可能エネルギー(再エネ)の導入促進
 - ・再エネの導入促進のための人材育成、支援制度等の情報発信
- (2) 自然共生型社会づくり(生物多様性の保全)
 - 関西の活かしたい自然エリアを活用した生物多様性の保全の推進
 - 関西地域カワウ広域管理計画の推進
 - ・被害対策実施体制の整備等の支援
 - ・広域的な生息状況等の調査による被害対策の推進
 - 広域連携による鳥獣被害対策の推進
 - ・鳥獣被害対策のための人材育成
- (3) 循環型社会づくり(資源循環の推進)
 - 3R等の統一取組の展開
 - ・プラスチックごみ削減に向けた取組の一層の推進
 - ・食品ロスの削減に向けた取組の推進
 - ・統一ギャッチコピーによるごみ減量の普及啓発
- (4) 持続可能な社会を担う育て(環境学習の推進)
 - 人材育成施策の広域展開
 - ・幼児期環境学習の水平展開
 - ・環境保全に必要な住民のつながり形成
 - ・各個別分野における環境人材育成

PDCAによる継続的改善

第5章 計画の進行管理等

各事業の担当者会議、参与会議、計画に係る有識者会議による進行管理

関西全域での相乗効果

構成府県市の取組の促進

構成府県市:滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、徳島県、京都市、大阪市、堺市及び神戸市(2府4県4市)

(2) 低炭素社会づくりの推進について (令和元年度 実績)

関西広域連合

広域環境保全局

温暖化対策課

エネルギー政策課

■ 温室効果ガス削減のための広域取組

● 住民・事業者に対する広域的啓発

関西エコスタイル等の呼びかけ

関西エコオフィス運動の展開

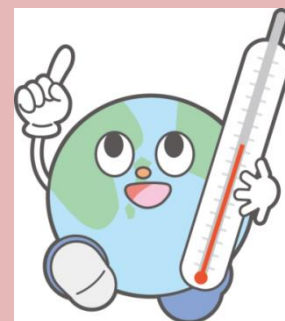
地球温暖化防止活動推進員・推進センター関西合同研修会の開催

● 再生可能エネルギー導入促進（H26～）

先進事例等の情報収集および促進方策の検討

再エネ導入促進に向けた研修会等の開催

エネルギーポータルサイトの運用



広域的啓発イメージキャラクター

● 次世代自動車の普及に向けた広域的な取組

次世代モビリティ社会と地方自治体の役割について考えるフォーラムの開催

燃料電池自動車（F C V）啓発冊子の作成

エコカー検定の実施

スケールメリットを活かしながら、温室効果ガスの排出削減を図り、
環境と経済の両立、くらしや事業活動の低炭素化・省エネルギー化を推進 9

低炭素社会づくりの推進について

■ 住民・事業者に対する広域的啓発

● 広域での省エネ行動の呼びかけ

- ・ 関西夏のエコスタイルの呼びかけ
R1 5/1～10/31
- ・ 関西夏のCOOL CHOICEの呼びかけ
R1 7/1～9/30
- ・ 関西冬のエコスタイルの呼びかけ
R1 12/1～ R2 3/31



「関西夏のCOOL CHOICE」ポスター

● 関西エコオフィス運動の展開

- ・ 関西エコオフィス宣言登録 1,760事業所（令和2年3月末現在）
- ・ 平成30年度関西エコオフィス大賞受賞事業所の取組紹介

● 地球温暖化防止活動推進員・推進センター関西合同研修会の開催

- ・ 家庭・地域で進める温暖化対策に関する研修、事例共有、意見交換（11月22日開催）

■ 再生可能エネルギー導入促進

● 情報収集・促進方策の検討と統一的な情報発信（H26～）

- ・ 先進事例等の情報収集および促進方策の検討
- ・ 再生可能エネルギーの導入促進に向けた研修会等の開催（1月28日開催）
- ・ エネルギーポータルサイトの運用

低炭素社会づくりの推進について

■ 次世代自動車普及促進事業

次世代自動車の環境性能や水素充填にかかる情報を整理した啓発冊子の作成するとともに、エコカー検定を実施しました。

また、新規事業として、次世代モビリティ社会と地方自治体の役割について考えるフォーラムを実施しました。

(新) 次世代モビリティ社会と地方自治体の役割について考えるフォーラムの開催

●関西広域連合での次世代自動車普及促進事業におけるこれまでの取組を振り返るとともに、「モノ」としてのモビリティから「サービス」としてのモビリティへの転換など次世代自動車を取り巻く最先端の動向について情報発信し、地域課題（エネルギー・環境問題、交通弱者問題）の解決ツールとしての次世代自動車の活用方策の事例共有を通じて今後の普及方策を展望しました。

1 日 時

令和元年10月4日（金）13時～15時20分

2 場 所

けいはんなオープンイノベーションセンター
（KICK）（京都府木津川市）

エコカー検定の実施

●知識向上を楽しみながら、次世代自動車に魅力を感じていただくための検定を実施。

検定期間

R1.10.1～R1.12.10



燃料電池自動車(F C V)啓発冊子の作成

●F C Vの環境性能や水素充てんに係る情報を整理して普及につなげるエコカー検定のテキストを兼ねた啓発冊子を作成。



(3) 自然共生型社会づくりの推進について (令和元年度 実績)

関西広域連合 広域環境保全局
(自然環境保全課)

自然共生型社会づくりの推進について

① 府県を越えた鳥獣保護管理の取組

広域に分布・移動して各地で被害を及ぼしている鳥獣については、単独の自治体による対策のみでは十分な効果を上げることが難しく、また対策が遅れている地域では被害が拡大するおそれがあり、統一的な対策の実施が必要。

● 関西地域カワウ広域管理計画の推進

- ・令和2年3月に第3次計画（R2.4月～R5.3月）を策定
- ・計画の目標：被害の減少、加害個体数の半減、生息環境の管理

○カワウのモニタリング調査の実施

- ・個体数、繁殖、移動調査（春・夏・冬期）、被害と対策状況の把握（漁協へのアンケート）

○カワウ対策の推進

- ・被害地域ごとの体制づくりや防除計画作成の支援（3地域）

● ニホンジカ等の広域的な鳥獣対策の推進

○広域的なニホンジカ被害対策の推進

- ・モデル地域での試行的捕獲の実施
- ・鳥獣捕獲等設計・管理ガイドラインの更新、監理監督者育成講座の実施（6回）

○広域連携による鳥獣被害対策の推進

- ・ニホンジカ、イノシシの利活用に関する実態調査の実施



幅広く収集した情報やノウハウをもとに、地域の鳥獣被害の状況に応じた適切な対策を実施することができる。また、対策を広域で実施することで、より効果的・効率的な成果が得られる。

自然共生型社会づくりの推進について

② 生物多様性に関する情報の共有および流域全体での取組による生態系サービスの維持・向上

関西には、この地域ならではの生物多様性の恵み（生態系サービス）が存在するが、開発などの人間活動、自然への働きかけの減少などにより生物多様性の損失が進行している。

※生物多様性とは・・・生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性

● 「関西の活かしたい自然エリア」の保全・活用（平成29年度～）

- ・ 自然エリア（東播磨・北淡路）エコツアーの開催（令和元年10月8日）
- ・ 自然エリアパネル等の展示会の開催

大阪自然史フェスティバル：令和元年11月16日、17日 京都環境フェスティバル：
令和元年12月7日、8日 第15回共生のひろば：令和2年2月11日

● 自然エリアの情報活用のための研修会（平成29年度～）

- ・ 自然エリア情報活用のためのGIS研修会の実施（令和元年度は新型コロナの影響で中止）



関西の活かしたい自然エリアの保全・活用を推進し、食物、文化、景観などの自然の恵みである生態系サービスの維持・向上をはかる。14

(4) 循環型社会づくりの推進について (令和元年度 実績)

関西広域連合 広域環境保全局
(循環社会推進課)

循環型社会づくりの推進について

■ 3R等の統一取組の展開

マイバッグ運動の推進など3Rの推進に向けた統一的な啓発を行うことにより、廃棄物の発生抑制を図るとともに、循環型社会形成に向けたライフスタイルの転換を図ります。

循環型社会づくりシンボルロゴマーク（H26～）

関西地域全体でごみ減量への取組など循環型社会づくりへの機運を高めるため、公募により作成したロゴマークを構成府県市のチラシ等において使用しています。



※事業者・団体等も使用可
(承認申請が必要)

◆令和元年度使用実績◆

関西広域連合
構成府県市

チラシ、ポスター、情報誌等に掲載

チラシ、ポスター、冊子等に掲載

ゴム印（ゴム印作成、封筒・名刺に使用）

以上 約1,547,000枚・部

その他WEBサイト、計画、会議資料等にも使用

マイバッグ運動の推進（H28～）

携帯電話や財布と一緒に常にマイバッグを持ち歩く「マイバッグ携帯」の啓発動画を公募し、優秀作品をインターネットで配信しています。

おでかけにいつも携帯マイバッグ👜

動画コンテスト

— Movie Contest —



◆最優秀賞◆

タイトル：地球にやさしいエコバッグ

制作者：菊池真愛さん（大阪府高槻市）



循環型社会づくりの推進について

マイボトル運動の推進 (H27～)

使い捨て容器の削減を図るため、マイボトルの利用可能な店舗をWEB上で検索することができる「マイボトルスポットMAP」を作成し、チラシ等による啓発を行っています。



スマートフォンにも対応

京都市マイボトル推奨店事業と連携

象印マホービン(株)の「給茶スポット」と連携

定期的なMAPの更新

平成27年12月の連合委員会から、各委員にマイボトルを利用いただいています。



また、マイボトルの利用促進やマイボトルスポットMAPの認知度向上を図るため、マイボトルスポットMAP登録店舗（一部店舗を除く）でのマイボトル利用客を対象としたキャンペーンを以下のとおり実施しました。

【結果概要】

実施期間：令和元年10月1日～11月30日

応募条件：キャンペーン実施店舗でマイボトルを使用した際のレシート5枚を事務局に送付。

応募件数：80件



循環型社会づくりの推進について

「関西プラスチックごみゼロ宣言」

令和元年6月のG20大阪サミット開催の機会を捉え、これまで取り組んできたマイバッグ運動やマイボトル運動などの3Rの取組をさらに推進するため、5月23日に「関西プラスチックごみゼロ宣言」を行いました。



関西プラスチックごみゼロ宣言

プラスチックは、社会や経済の発展により私たちの暮らしが利便性を増す中で身近に使用されてきました。

使用済みプラスチックの一部は、ポイ捨てなどにより、河川等を通じて海へ流れ込んでいます。こうした海洋プラスチックごみによる地球規模での環境汚染や生態系への影響が懸念され、国際会議で議論されるなど世界的に関心が高まっています。

関西地域は、日本海、瀬戸内海、太平洋に囲まれ、河川、湖沼の間に形成された山地、盆地、平地に、2,200万人余りの人々が生活しており、この地域からも相当量のプラスチックごみが海洋に流出していると思われます。

本年6月、G20サミットが関西の大阪で開催され、海洋プラスチックごみ問題が議題の一つとなる予定です。この機会を捉え、関西全体の広域行政を担う関西広域連合は、プラスチックごみによる海洋汚染防止に取り組むとともに、その強い決意を国際社会に向けて発信することが重要です。

ついで、関係自治体が連携して、ごみを出さないライフスタイルへの転換を目指し、これまで取り組んできたマイボトルやマイバッグ持参運動等を通じた3R（リデュース、リユース、リサイクル）をさらに推進し、住民、事業者、団体等と協力しながらごみのポイ捨て防止や一斉清掃活動、発生抑制などプラスチックごみゼロに向けた不断の取組を行うことをここに宣言します。

2019年5月23日

関西広域連合

「私のプラごみ削減提案」

「関西プラスチックごみゼロ宣言」の取組の一環として、域内の住民等からプラスチックごみの削減につながる取組を募集し、優秀作品をホームページ等で周知しました。

【結果概要】

募集期間：令和元年6月26日～8月30日

応募件数：33件

最優秀賞（概要）：ファッションブランド等と協力し、ブランドがイメージする「3R」を印字した紙製の買物袋を作製。⇒ 若者が気軽にプラスチックごみや3Rの問題を考えられるようにする。また、紙製買物袋をマイバッグとして使用する。

循環型社会づくりの推進について

様々な広告媒体を組み合わせた啓発活動

「関西プラスチックごみゼロ宣言」を踏まえ、関西地域における3Rをさらに推進し、プラスチックをはじめとするごみを出さないライフスタイルへの転換を図るため、以下の広報を実施しました。

【広報期間】

令和元年10月1日～12月31日

【広報内容】

- ・マイボトルの利用促進
- ・マイバッグ携帯啓発動画の周知
- ・食品ロスの削減
- ・プラスチックごみの削減

【広報手段】

- ・インターネット広告
- ・ラジオ広告（MBSラジオ）
- ・駅構内にポスターを掲載
- ・情報誌（読売ライフ）に掲載



広域連合のFacebookを用いた3Rの取組発信

広域連合のFacebookを用いて、各構成府県市の3Rの取組を積極的に発信しています。

一般廃棄物の適正処理に向けた広域的な取組の検討（H28～）

域内の市町村での一般廃棄物の適正処理に係る課題について、「廃棄物適正処理担当課長会議」を開催し、課題の把握および課題解決に向けた調査研究、先進事例等の情報共有を行いました。

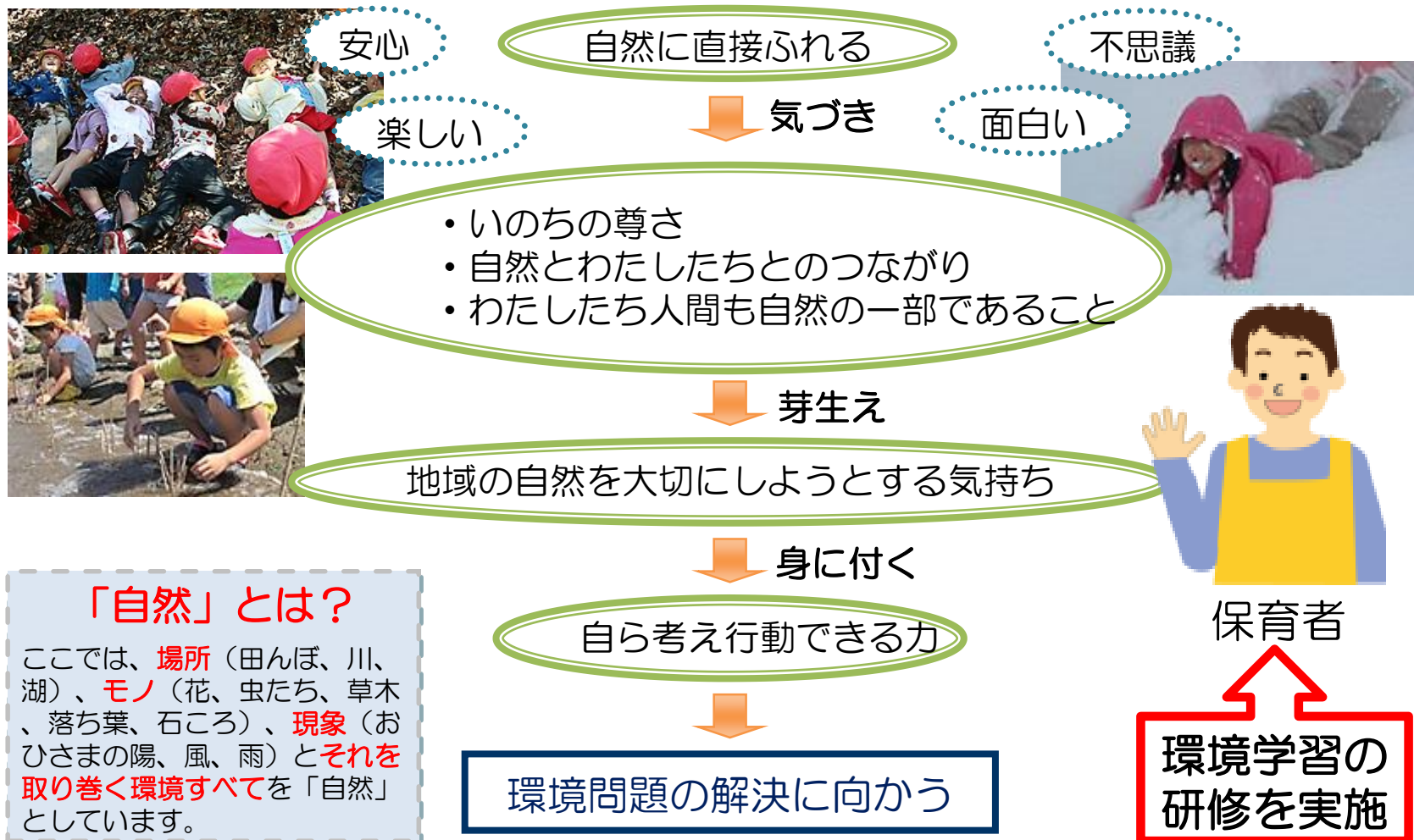
(5) 環境人材育成の推進について (令和元年度 実績)

広域連合 広域環境保全局
(環境政策課)

環境人材育成の推進について

構成府県市ではそれぞれの地域資源を生かした環境学習が実施されている。それらを共有する枠組みを構築し、府県市単独よりも多様で深みのある環境学習を推進する。

■ 幼児期環境学習の推進



※本取組は、滋賀県事業をモデルとしています。

■ 幼児期環境学習の推進

研修会の内容

1 講師による公開保育



自然の中でのあそびと
学びを公開保育します!!

2 理論等の座学



公開保育でのねらいや地域の
自然の活かし方など、環境学
習のノウハウを解説します!!

3 研修生の自然体験



子どもが楽しむには、まず先生から。
あそび・保育の幅が広がります!!

<平成26年度 研修会実施実績>

- ・11月 兵庫県
- ・12月 大阪市、神戸市
- ・1月 和歌山県

<平成27年度 研修会実施実績>

- ・11月 京都府
- ・1月 京都市
- ・2月 徳島県、堺市
- ・3月 大阪府

<平成28年度 研修会実施実績>

- ・10月 和歌山県
- ・12月 兵庫県、大阪市
- ・2月 滋賀県、神戸市

<平成29年度 研修会実施実績>

- ・11月 徳島県
- ・1月 大阪府、京都市
- ・2月 京都府、堺市

<平成30年度 研修会実施実績>

- ・6月 兵庫県
- ・11月 神戸市
- ・1月 滋賀県
- ・2月 和歌山県、大阪市

<令和元年度 研修会実施実績>

- ・11月 堺市、京都市
- ・12月 大阪府
- ・2月 京都府

※ 3月に予定していた徳島県における研修は新型コロナウイルス感
染拡大の影響を踏まえ中止した

■ 地域特性を活かした交流型環境学習事業

関西がもつ自然、歴史、文化などの豊かな地域特性を活かした交流型環境学習を行う。構成府県市から参加者を募集することで、関西広域連合全体で当地域の環境や課題等への理解醸成を図ることはもとより、参加者が自らの居住地域において環境を大切にする機運を高める。

琵琶湖「うみのこ」親子体験



琵琶湖環境学習

展望活動



日本一大きい湖、琵琶湖について学習します。



歴史ある島の展望を行います。琵琶湖を全身で感じます。

天神崎自然観察教室



磯観察

湿地・日和山散策



自由に採集した磯の生物を解説します。



天神崎の保全経過を説明します。

<実施実績（参加者数）>

- 平成28年度 4回実施（171組）
- 平成29年度 2回実施（109組）
- 平成30年度 1回実施（59組）
- 令和元年度 2回実施（110組）

<実施実績（参加者数）>

- 平成29年度 2回実施（94名）
- 平成30年度 1回実施（71名）
- 令和元年度 1回実施（54名）